



究真館ラグビー部の魅力を届けたい



究真館高校ラグビー部には58名の部員がいます。その部員のうち、1年生5人、2年生8人、3年生6人の合計19人が親元を離れ、下宿生活を送りながら、吉瀬晋太郎監督のもと、日々鍛錬を行っています。そんな部員に、うきは市にある唯一の高校、究真館をなぜ選んだのか聞いてみました。

なぜ、究真館ラグビー部に？

うきは市の皆さん、こんにちは。浮羽究真館高校ラグビー部の魅力を紹介합니다。私たちはラグビーというスポーツをするだけの集団ではありません。常に自身が置かれている環境に目を向け、学校行事や地域のイベントに積極的に参加して盛り上げたり、被災地の復興作業などのボランティア活動に参加したりしています。

このような活動を通して人間性を高め、人としてもラグビー部としても日本一を目指す集団であることを目標にしています。このような高い志を持つ集団に入った私が特に誇りに思うことは、練習試合等の会場を後にする時のラグビー部の習慣です。試合が終わり、荷物をまとめて帰る前に、全員で試合ができたことに対する感謝の気持ちを込めて会場の清掃を始めます。このような周囲への配慮や感謝という意識の高さは受け継がれてきた伝統の一つです。また部員一人一人がうきはの看板であることを意識し、地域に貢献しようと活動している部でもあります。私はこのラグビー部の姿勢に魅力を感じ、自分もこの集団の一員になりたいと強く思い、浮羽究真館高校を受験することに決めました。

これからも浮羽究真館高校ラグビー部のこの素晴らしい伝統を受け継ぎ、さらに魅力あるものに発展させるように頑張ります。

文：1年大津樹聖（三輪中）



ヤングラガーズクラブ交流館（吉井町18-10）で下宿生活をしている3年生6名に聞いてみました

下宿生活は楽しいですか？

はい、楽しく生活できています。現在、私がいる下宿には計6人の下宿生がいます。初めはお互いのことを全く知らず、共同生活を上手くやれるか不安でしたが、学校の内外で生活をともにするうちに自然と仲良くなり、今ではとても楽しい生活を送ることができています。

また、朝昼晩の食事を準備していただいている下宿先の方が私たちの生活を支えてくださっています。下宿生活も残り少なくなってきたおり、日頃からお世話をしてくださるすべての方々に感謝しながら、最後の大会に向けて頑張りたいです。

下宿生代表：3年野田欧介（天拝中）

地域貢献活動も頑張っています

私たち浮羽究真館高校ラグビー部は、高校ラグビーを通じて、日本中に「感動・笑・夢」を届け、多くの人に幸せになってもらうという目標を掲げ活動しています。この目標への第一歩として、地元うきは市の活性化を考え、これまで様々な取り組みを実施してきました。

最近では7月19日にうきは警察署と協力した交通キャンペーンを実施し、「登校中の児童に対する保護誘導活動」と「地域住民等に対する交通事故防止の呼びかけ」を行いました。これ以外にも、私たちが日頃から鍛えている筋力を発揮する機会でもあるボランティア活動なども行いました。昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で活動の場が減少しましたが、今後も「感動・笑・夢」を皆さんに届けられるように、浮羽究真館高校ラグビー部全員で地域貢献活動を頑張っていきます。これからも応援をよろしくお願い致します。

文：3年久家寛之（内浜中）



うきは市寺小屋事業ボランティア



デイサービス訪問ボランティア



JR筑後吉井駅清掃ボランティア